

2026年9月29日（火）

老球の細道943号

9月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

「老の眼のうるみて仰ぐ秋の空」俳人の富安風生が還暦の頃に、そう寂しげに詠んでいたという。「敬老の日」など無視していたが孫達が許さなかった。孫たちのメッセージで免疫力も高まる。誕生日、父の日と共に今では「オイ（古い）ラが大将」の「3大記念日」。雨の多かった9月であったが、毎朝生きる喜びと感謝で秋の空を見ることができた。

1・映画から

「ふりかえるな、ふりかえるな、後には夢がない」〈WOWOW『ああ、荒野・後編』〉：病になる前の一日の締めくくりの楽しみはお酒であった。お酒が飲めない今は映画が唯一の楽しみ。テーマがはっきりしている映画にはメッセージがある。ボクシングを通して過去の人生を克服する映画であるが、過去のバスケの夢にうなされている私には「ビシ、バシ！」。

2・読書から

◆「たくさん傷ついても次へ立ち向かっていける力を養うには何よりも小さな成功を楽しむことが必要である」〈難波優輝著『アンチ・スポーツの科学』朝日選書〉：「失敗は成功の元」と言われてきたが、「小さな成功は大きな成功の元」でもある。バスケのドリルにおいても選手が成功するアドバンテージドリルを考え、小さな成功体験を積み重ねることが大切。

◆「教育の技術とは上手に挑ませることにあり。教育とは不屈に挑む人をつくることだといえるかもしれない」〈近藤薫樹著『挑まぬ者に発達なし』労働旬報社〉：上記の言葉とも共通する考えである。最初から大きな目標に挑戦させるのではなく、簡単な挑戦からステップバイステップ。あきらめないで挑戦し続ける選手を育てることがコーチの勲章である。

3・新聞から

◆「曇りなき心の月を先立てて浮世の闇を照らしてぞ行く」〈朝日：オピニオン&フォーラム〉：わが会津の地に少しの期間大名として君臨した戦国最強武将の一人伊達政宗の辞世の句である。信念や決意という「心の月」の光を灯しながら前へ前へと進む勇気をもらえると埼玉県の中学生在が投稿している。

◆「老いとは何か。きのうの出来事にため息をつく者がいれば、あすを思って嘆息する者もいる。だが、老境に達した者でなければ、今日！という言葉の輝かしい、絶対的な、否定しえない、かけがえのない意味を理解することはできない」〈朝日：天声人語〉：フランスの詩人クロードルの言葉。日本酒の「而今」は美味しかった。今は道元の「而今」（今がすべて）に毎日酔いしれて生きている。

◆「人生を鈍らせるのは、“間違った選択”ではありません。“放置”です」〈朝日：折々のことば・櫻井秀勲〉：済んだことは仕方がないと放っていると、人は鈍り、人生も硬くなると95歳の現役編集者は言う。バスケットでも一つのミスが勝敗を分ける。その時にミスを修正しないと、また同じミスを繰り返す。